

腎臓内科 研究業績 (2017年)

学会発表(特別・教育講演、シンポジウムを含む)

- 1
 - ① ○高橋祥子、川田博昭、竹中義昭
 - ② 長期罹患の糖尿病患者に膜性腎症を合併した1例
 - ③ 口演
 - ④ 日本内科学会第215回近畿地方会
 - ⑤ 神戸(神戸国際会議場)
 - ⑥ 2017/3/25

糖尿病罹患期間の長い症例が多量蛋白尿を呈した場合、多くは糖尿病性腎症による蛋白尿である。しかし、糸球体腎炎の合併による蛋白尿

 - ⑦ であることも鑑別診断として考えるべき病態で、本例は、腎生検による組織診断をもって、糖尿病性腎症ではなく膜性腎症であることを診断することができた。糖尿病患者の蛋白尿を診断、治療するにあたり、病態に疑念があれば、腎生検を行なうことは有用である。

- 2
 - ① ○竹中義昭、高橋祥子、川田博昭
 - ② 維持血液透析患者における多剤投薬の検討
 - ③ ポスター
 - ④ 第62回日本透析医学会学術集会
 - ⑤ 横浜(パシフィコ横浜)
 - ⑥ 2017/6/16-6/18

本院維持血液透析患者における内服薬剤において、降圧薬の薬剤数・錠数が多く、リン吸着薬の錠数が多かった。服用率は、リン吸着薬・消

 - ⑦ 化性潰瘍治療薬・降圧薬・高尿酸血症治療薬で高い。他診療科からの処方では、薬剤数・錠数ともに多い場合が見られた。糖尿病群は非糖尿病群より、薬効分類数、薬剤数が多く、薬物治療を要する合併症、病態の多いことが推測された。